

米沢興讓館SSHFAQ

Q SSHとは何ですか？

A SSHは、スーパーサイエンスハイスクール(以下、SSHと略します)の頭文字で、文部科学省による研究開発指定校です。未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとして、理数系教育の充実をはかる取り組みです。

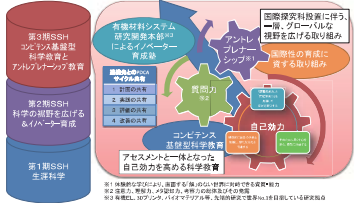
Q 全国で約200校がSSHに指定されており、これは全国の高等学校の4%程度で、日本有数の進学校などが指定を受けています。

A 本校は、現在3回目の指定を受けており、「未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成」を研究開発課題として、平成29年度より平成33年度まで5カ年間取り組めます。

Q 前回の時と今回のSSH指定での違いは？

A 前回指定時の取り組みの成果として、進学実績をあげながら、「科学の甲子園」全国大会3年連続出場(県大会優勝)や実技競技生物部門での全国一位(トヨタ賞)、国際科学技術系オリリンピックでの全国入賞、全国高等学校総合文化祭自然科学部門出場(県サイエンスフォーラム最優秀賞)など、これまでになかった結果をだすことができました。また、海外の高校と姉妹校になることで、国際的な連携も進めることができました。そのため、これまでのSSHの取り組みの骨組みはそのままに、これからの時代の新しい評価方法を研究していきます。この取り組みは、今度の新テスト(大学入試共通テスト)に対応することとはもちろん、その先の新しい学習指導要領改訂も見据えた取り組みになると確信しています。左図は、今回の取り組みの概念図です。

未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成
～サイエンスイニシアティブ育成による教育地方創生モデルの創出を目指して～



Q 入学してからのSSHとしての取り組みの概要はどのようなものですか？

A まず、1年生全員を対象として学校設定教科・科目「異分野融合サイエンス」を展開していきます。これは、全教科が協力し、様々な学問領域を融合させ、大学や研究機関等と連携を図りながら体験的な実験講座や演習等を行うっていくものです。低学年

の段階で様々な分野を「自然科学」の切り口で学ぶことにより、自然科学に対する興味・関心が高まる取り組みとなります。

さらに、これら低学年時の学びによって、科学の面白さや奥深さに気づき、そのような学問をさらに深く学んでいきたいという生徒に対しては、2年生以降から卓越研究者の素養を育む研修等に取り組んでいきます。日本の将来を担うサイエンスイニシアティブ(卓越した研究者)になるためには、豊かな表現力や国際性が備わっている必要があるため、国語科や英語科と協力しながら、海外研修も実施しています。

Q SSHがわかりやすくなるような、具体的取り組みを教えてください。

A 山形大学工学部と連携した様々な取り組みがあります。例えば、スーパーサイエンスリサーチです。高等教育機関と連携することで、課題研究

の質的向上を目指しています。そのために、山形大学工学部に在籍している海外の留学生が毎週デイリーチャットアシスタントとして来校し、英語で生徒の研究を支援してくれています。

他にも様々な校外研修活動があります。関西方面へのサイエンス研修では全国SSH生徒研究会連合会に参加しながらスーパーコンピュータ「京」等の科学関連施設研修を行っています。海外研修では平成27年3月に姉妹校協定を締結した国立台湾師範大学附属高級中学へ訪問し、お互いの研究内容を英語で発表する機会を設けています。



きみたちの

を大切にします。



山形県立米沢興讓館高等学校

山形県立米沢興讓館高等学校
SSH企画部

山形県米沢市大字番野一〇二番地
TEL0238-1381274-1
FAX0238-1253-1
Yonkeicho@pref.yamagata.ac.jp

米沢興讓館SSH
facebookへ

深める



イノベーター育成



サイエンスコミュニケーション



関西方面サイエンス研修



ハイレベル科学実験講座

日本の、世界の将来をより良くするため、
僕達は大好きなことに一生懸命取り組む

新たな時代の最先端教育

ワクワクがとまらない

科学的なものの見方や考え方で、様々な
学問への興味・関心を広げる・つながる



Diversity-KOJO講座



異分野融合サイエンス探究



FSI[社会と科学]コース



FSI[アートを科学する]コース

高めめる



バンコク青年科学技術会議



米沢興産館サイエンスフォーラム



北東アジア環境・エネルギーシンポジウム



SSH台湾海外研修

世界の仲間達と切磋琢磨し、日頃の研究成果を発表しあうことで、お互いを高める



SSHサマースクール



科学フェスティバル



生涯学習フェスティバル

この面白さを、未来の僕達に
伝えずにはられない

伝える